

LLL230 日本語の変遷

2年 3,4クォーター

担当教員 Christopher Hennessy M.A.

授業形態 演習

単位数 2

曜日・時限 火曜日・1時限

授業概要

今日、世界中で約一億三千万人の人が日本語を話している。近代日本語は、世界中で一番多く話されている言語の一つと言える。しかし、歴史を遡ると、現代の日本語話者が例えば二百年前の日本語を理解することは困難であろう。何が変化したのか？また、なぜそのような変化が起こったのか？このコースでは、LLL210: Introduction to Linguistics で学習した言語学的原理を応用し、また歴史言語学の基本概念と分析方法を紹介しながら、奈良時代以前から現代に至るまでの日本語を時系列順に追っていく。そして、日本語の歴史言語学的変化、社会言語学的側面、日本語教育史、世界中の言語における日本語の位置づけなどについて考察する。

到達目標

本コース履修者は、

- (1) 日本語の話し言葉・書き言葉の歴史的变化を考察する。
- (2) 歴史言語学の方法論を用い、具体的な言語変化の現象を分析する。
- (3) 世界における日本語の位置づけを理解する。
- (4) LLL210:言語学入門で学習した言語学の基礎的知識や主要な概念を再確認し、応用する。

先修科目

LLL210:言語学入門

教科書・参考資料等

教科書

- (1) Shibatani, M. (1990) *The Languages of Japan*. Cambridge, UK: Cambridge University Press.
- (2) Seeley, C. (2000) *A History of Writing in Japan*. Honolulu, Hawai'i: University of Hawai'i Press.

参考書

- (1) Frellesvig, B. (2010) *A History of the Japanese Language*. Cambridge, UK: Cambridge University Press.
- (2) Ramsey, R. Robert (1982) "Language Change in Japan and the Odyssey of a Teisetsu" in *Journal of Japanese Studies*. Vol. 8, No. 1 (Winter, 1982), pp. 97-131

授業の方法

本コースは、セミナー形式とする。事前課題を踏まえた講義を理解して積極的に議論に参加する、また授業中に与えられる質問や問題についてグループワークを行う。

成績評価

歴史言語学課題: 学期中、日本語の歴史的变化を決定づける歴史言語学の方法論に焦点を当てた四つの課題が与えられる。

中間レポート: 日本語の歴史言語学に関する指定のトピックについて、三ページのレポートを提出する。授業中や自己学習における学習内容に基づく個人的見解・意見を交えて書くことが期待される。

分析ペーパー: 日本語の歴史言語学的文脈における側面について分析し、五ページのレポートを完成させる。テーマは自由とする。学期末には、分析ペーパーの発表を行う。

成績

- 20% 出席と参加
- 20% 歴史言語学課題 (4)
- 10% 中間レポート
- 20% 分析ペーパープレゼンテーション
- 30% 分析ペーパー

授業スケジュール

- 第1週: 日本語と世界の語族
テーマ: (1) 世界の語族と日本語
(2) 日本語の特徴
- 第2週: 上古日本語(700~800 A.D.)
テーマ: (1) 音韻論 【子音と母音の構造】
(2) 文法 【動詞、形容詞、助詞、代名詞】
(3) 外来語 【アイヌ語、中国語、韓国語、サンスクリット語】
(4) 現代日本語の祖語
- 第3週: 上古日本語の書記言語
テーマ: (1) 漢字の採用
(2) 表意文字・表音文字 【古事記・日本書紀】
(3) 万葉仮名・宣命書き
- 第4週: 中古日本語(800-1200 A.D.)
テーマ: (1) 音韻論 【音節構造、長音節、音便】
(2) 文法 【動詞、形容詞、助動詞、助詞】
(3) 係り結びの発展
- 第5週: 中古日本語の書記言語
テーマ: (1) 仮名の発展 【平仮名、片仮名、変体仮名】
(2) 漢字仮名交じり文
(3) 日本語の中国語化
- 第6週: 中世日本語 (1200-1600 A.D.)
テーマ: (1) 音韻論 【鼻音性、/w/の消失、長母音】
(2) 文法 【動詞形態、存在動詞、統語変更】
(3) 敬語
- 第7週: 中世日本語の書記言語
テーマ: (1) 歴史的仮名遣
(2) 藤原定家の貢献
(3) 鎌倉時代・室町時代の仮名遣い
- 第8週: 近世日本語 (1600-1868 A.D.)
テーマ: (1) 江戸時代の共通語
(2) 音韻論 【/d/と/z/の混合、/f/の非円唇化、外来語による音素変化】
(3) 文法 【意志動詞の形成、形容詞と連結詞の組み合わせ】
- 第9週: 近世日本語の書記言語
テーマ: (1) 契沖の歴史的仮名遣い
(2) 江戸時代にある書き方
- 第10週: 現代日本語 (1868以降)
テーマ: (1) 明治時代における日本語の統一と標準化

- (2) 日本語の西洋化
- (3) 日本語とナショナリズム

第11週: 現代日本語の書記言語

- テーマ:
- (1) 明治時代における書記言語の改革
 - (2) 戦後における書記言語の改革

第12週: 日本語の方言

- テーマ:
- (1) 方言の区別とその発展 【関西弁と関東弁】
 - (2) 方言区別の理論 【柳田國男、東条操】
 - (3) アクセント

第13週: 日本語教育史

- テーマ:
- (1) 江戸時代から明治時代までの布教者の日本語教育
 - (2) 第二次世界大戦におけるアメリカ軍の「アーミーメソッド」
 - (3) アメリカの強制収容における日系人の日本語教育
 - (4) 現代の「国語教育」と「日本語教育」

第14週: 現在大衆文化の日本語

- テーマ:
- (1) 現在の若者の言葉
 - (2) 日本語と情報時代のテクノロジー

第15週: 分析ペーパーのプレゼンテーション

事前・事後学習

- ① 授業の項目は教科書・参考資料等にあげた項目に対応している。講義聴講の前に、対応する項目を一読すること(予習)。
- ② 義聴講の後に、講義された内容・配布資料と共に対応する教科書・参考資料等の項目について理解を深めること(復習)。